

体制づくりを進める上で  
必要となる人材（コーディネーター等）について

令和5年12月21日  
生活文化スポーツ局

## 体制づくりを進める上で必要となる人材（コーディネーター等）

『東京における「地域日本語教育の体制づくり」のあり方』より

### 体制づくりに必要とされる必須要素

- ① 地域における共生社会実現のために、体制構築に関する明確な考えを持っていること
- ② 地域の実態を把握し、課題を理解していること
- ③ 2つの視点（①初期段階の日本語教育を保障、②外国にルーツをもつ人々が地域社会とのつながりを持つ）を持ち、取り組んでいること

あり方を踏まえた“体制づくり”を進める上で必要となる人材を提示する

### 体制づくりの中で人材（チーム）が担っていくもの

#### （国の整理）

- 日本語教師に求められる資質・能力
- 地域日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力

#### それ以外の求められる部分（案）

- 地域日本語教育の意義を説明できること
- 予算確保
- 地域における民間の主体等(※)につなぐこと
- 日本語教室との意見交換の場の設定
- 担当者が複数の場合は、それぞれの役割を対外的に示すこと
- 関係者が共通認識を持って活動できる**体制を確保**

※ ボランティア教室、国際交流協会、日本語教育関係団体、日本語教育人材、**外国人コミュニティ** 等

## 第4回の委員の主な意見

- ▶ 「地域における民間の主体等(※)につなぐこと」とあるが、「※」には当事者となる「**外国人コミュニティ**」をはっきり明記した方がいい
- ▶ 外国人の方々が多く関わっているものとしては、**地域の特性により、「外国人学校、教会、モスク」なども挙がるが、そこを洗い出すのもコーディネーターの大きな役割**であり、そこを知らずしてつなげるのは難しいのではないか
- ▶ 地域日本語教育の体制づくりの中で、学んだ日本語を使って、**地域に参画していくことを前提とするならば、様々な主体というのは、地域の色々なところがあたる**と思う。国際交流協会とか日本語教育機関団体と書くと、いかにも日本語教育だけにフォーカスしているように見える
- ▶ 学習している人が少ないという課題に対し、まずは個人をどうやって教室につないでいくかというところのコーディネーションが必要であり、**教室から社会へのつなぎというところも必要**。全体をコーディネーションできるというのが非常に重要な役割・機能だと思うので、日本語教室の議論しかできないというのは十分ではない
- ▶ システムが機能している港区の事例紹介があったが、都内には経済的に苦しい外国人の方一定数いるため、経済的に厳しい中での事例も同時に示していただけるとよい。また、**児童相談所や子ども家庭支援センター**といった、**経済的に厳しい環境の人とやりとりしているところも巻き込めるといいのではないか**



**地域の状況に応じて、つなぎ先を広く捉える必要がある**

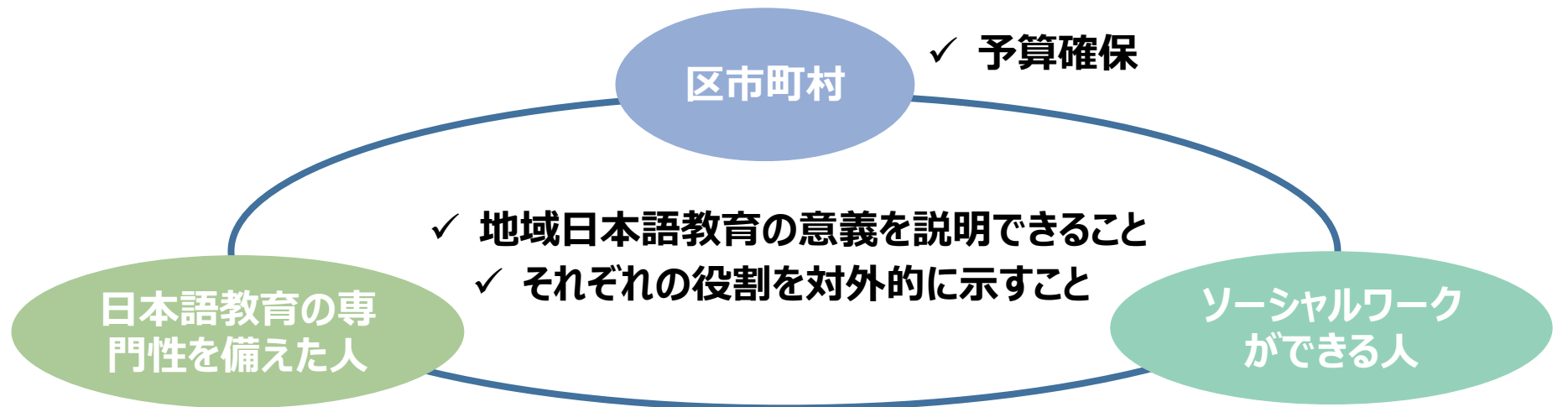
## 第4回の委員の主な意見

- 行政は人事異動があるため、区職員が単独でコーディネーターをやることで、日本語教室と顔が見える関係ができて、再度関係性構築が必要になってしまうといった問題がある
- 外国人の生活を本当に考えた時には、もっと多様な知識・ネットワークが必要になると思うので、とても一人のコーディネーターが担えるものではない

## 必ずしも一人で取り組む必要はなく、チームをつくることも検討

### チーム例

- ✓ 関係者が共通認識を持って活動できる体制を確保



- ✓ 日本語教室との意見交換の場の設定

- ✓ 地域における民間主体等につなぐこと

様々な主体に対しての働きかけが必要であり、参考となる地域の事例を紹介しつつ、広めていく

# 【参考資料】

## 台東区の事例

### ✓ 台東区人権・多様性推進課

事業（日本語教室等）の運営全般を担う。他部署との連携による多文化共生の意識啓発ややさしい日本語の活用推進、多言語での情報発信等

### ✓ 地域のキーパーソン（多文化共生コーディネーター、日本語教師）

地域日本語教室や区の多文化共生事業の企画・運営等

### ✓ 日本語学校

日本語教育の専門性を活かして、ボランティア養成講座・やさしい日本語の講座等を実施

### ✓ 日本語ボランティアサークル

※ 各主体が随時連携し、外国人向けの日本語教室を開催する他、区民向けの多文化共生講座などを実施

### 『台東区多文化共生推進プラン（令和4年3月台東区）』より

- ・ 台東区基本構想に掲げる将来像：世界に輝くひとまちたいとう
- ・ 台東区多文化共生推進プランの基本理念：言語や文化、生活習慣などの違いを相互に理解・尊重し合い、誰もが地域社会の一員として活躍できる「多文化共生」の地域社会の実現
- ・ 3つの基本目標：
  - I 外国人と日本人が共に安心して生活できる環境の整備
  - II 多様性を尊重し、誰もが活躍できる地域づくり
  - III 多様な主体との連携による多文化共生の推進

外国人が話せなくても大丈夫！  
「やさしい日本語」で外国人と話ませんか？

例えば…！  
「どちらの国からいらっしゃいますか？」  
↓  
「どの国から来ましたか？」

このように簡単な日本語で話しかけると、外国人にとってとてもわかりやすい日本語になります！  
外国語では日本語で、外国人とのコミュニケーションがもっともみえたらいいですね！

日時 12/5、12/12（全2回）  
12/5 10:00～11:30 年齢10～19歳  
12/12 10:00～11:30 年齢10～19歳

場所 生涯学習センター 301研修室  
（台東区都立東3丁目25番地10号） 5/13、20/21に実施の講座と同じ内容です。

費用 無料

定員 40名（先着順） ※ 外国人のための日本語学習講座ではありません。

対象 台東区内在住・在勤・在学の方  
区内で日本語ボランティアをされている方

申込 電話または 電子申請 より申し込みください。

回	日時	内容
1	12月5日(火)	日本語に不慣れな外国人と「日本語で話す」について考えます。 「わかりやすい日本語」のほんのり上手な会話のやりかたを学びます。
2	12月12日(火)	実際の外国人と日本人が話します。参加者同士の話を聞きながら、お互いの関心がある話題を探ります。

お申し込み・お問い合わせ 台東区人権・多様性推進課 電話 03(5246)1116

コミュニケーション支援の充実  
多文化共生意識の醸成 など

## 【参考資料】

### 北区の事例

#### ✓ 北区総務課

事業（日本語教室等）の運営全般を担う。参加募集、周知、会場確保、教材印刷、消耗品手配等。

#### ✓ 日本語学校

日本語教育の専門性を活かした取組を担う。日本語を教える、カリキュラム策定、日本語教室のボランティア（北区では「サポーター」と呼ぶ）への指導、連絡調整等。


※ **日本語教室の場は、日本語を学習するだけでなく、地域へのつながりを作る場でもある。**

**地域へのつながりを促進していくためには、行政だけでなく、日本語学校や社協、NPO・ボランティア等との連携強化（チーム体制）の必要性を認識**

#### 北区多文化共生指針（平成30年7月北区）』より ※現在、見直しの検討中

- ✓ 基本理念（将来像）：日本人と外国人が地域で相互理解を深め、ともに安心して心豊かに暮らせるまち北区
- ✓ 基本目標（目指すべき姿）：1 日本人と外国人がともに安心して暮らせる環境づくり
  - （1）、（2）（略）
  - （3） **日本語学習の充実**
    - ① 日本語学習を行う支援団体との連携
    - ② 外国人区民の日本語学習の推進
    - ③ 外国人児童・生徒等への学習支援
- 2、3（略）

- 区市町村の中には、日本語教育の専門性を備えた人、ソーシャルワークができる人と役割分担をしながら一緒に体制づくりを行う動きが見られ始めている

 今後、これらの事例を一モデルとして提示

- 昨年度から収集している区市町村の取組事例に加え、東京における地域日本語教育の基本的な項目をハンドブックとしてまとめる